

施策評価シート

施策等名称	ふれあい、学びあい、支えあいのあふれるまち	体系番号	0101010103
		主管課	地域福祉課

1 施策基本情報

現状と課題	市社協を中心とした、子どもに対する福祉教育は実績を重ねてきており、施設においても児童の訪問来所を通じてふれあう機会をつくる活動などが増加しています。今後も、次世代を担う子どもの健全育成や福祉のこころの育成に向けて継続して取り組んでいく必要があります。また、学校と市社協が連携し、地域を巻き込み、日ごろから地域福祉を学ぶ機会を増やすことで、豊かな福祉観を身につけ共に生きる力を育むことにつながります。地域や学校の福祉教育の取組について情報共有と課題の整理を行い検討していくことが必要です。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	子どものときから生涯にわたって地域福祉を学ぶことを大切にします。 住民が地域福祉に関心を持つことによって、積極的に地域福祉活動へ参加できるようになり、ボランティアな支えあいの意識の基に、住民が主体で進めていく支えあいの活動を盛り上げていきます。 ※主要事務事業の(★)は、地域福祉計画の「具体的な施策の展開」(第三編)における「課題に向けた施策」に掲げられた項目であることを示す。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2023年度目標値	
				2027年度目標値	
①	区・自治会での支え合いによる活動(施策共通指標)	区・自治会における支え合いの活動数(件)	6	30.00	50
				50.00	100
				1.00	1
②	課題に向けた施策の実施状況(施策共通指標)	具体的な施策の展開(第三編)における施策の実施率(%)	0	50.00	100
				1.00	1
③	地域福祉の推進へのアンケート調査実施(施策共通指標)	計画策定にあたって、住民満足度を把握するためのアンケート調査の実施(回)	0	1.00	1

施策の柱1	名称	地域の支え合い(地域福祉活動推進に向けた協働への支援)	主管課	地域福祉課		
	詳細	住民が主体となって地域での福祉活動を進めるため、各種団体の横のつながりと市民団体の縦のつながりが有機的に連携したネットワークの構築や、地域で起こる個別的な福祉課題をそこで暮らす人たちがすべての課題として取り上げて行政に繋げるなど、地域福祉活動を進める社会福祉協議会の役割が大きいのとなっています。市が必要な支援を行うことにより、市民の福祉ニーズに沿ったインフォーマルサービスや幅広い福祉活動の展開を期待します。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
	1	※社会福祉協議会で策定する強化発展計画の内容を踏まえて設定する。			1 社会福祉協議会助成事業 2 3 4 5 6	実施
	2					
	3					
基本政策間連携						

施策の体系	名称	地域の支え合い(地域福祉の担い手の育成)	主管課	地域福祉課		
	詳細	様々な地域課題の解決や個別課題へのきめ細やかな対応のため、今後ますます重要となる身近な地域福祉の担い手である民生児童委員、保護司・更生保護女性会、日赤奉仕団等の活動を支援します。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
	1	地域福祉団体活動数	民児協、日赤奉仕団、更生保護団体の活動数の合計	4	1 民生児童委員活動支援事業 2 日赤奉仕団活動支援事業 3 更生保護団体事務局事 4 5 6	実施 実施 実施
	2					
	3					
基本政策間連携						

施策の柱3	名称	地域住民の学び	主管課	地域福祉課		
	詳細	障害の有無や種別、認知症などに関係なく、様々な人が共に地域で暮らしていくためには、住民が学習を通して正しく理解することが必要です。これまでの、市社協、学校教育、地域の活動、公民館活動など様々な機会における福祉に関わる学習に加えて、年齢に応じた学習や体験、地域で子どもと大人が共に学ぶ場を作ることを検討します。また、サポーターなどの育成や連絡会などの立ち上げ、個人、団体を問わずお互いに情報を共有できる仕組みについても検討します。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
	1	※各事業の検討状況を踏まえて指標を設定する			1 年齢に応じた学習、体験の場の情報発信(★) 2 3 4 5 6	検討中
	2					
	3					
基本政策間連携						

施策等名称	ふれあい、学びあい、支えあいのあふれるまち	体系番号	0101010103
		主管課	地域福祉課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分 指標No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策 1	区・自治会での支え合いによる活動(施策共通指標)	6.00	6.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		30.00	20.00	16.67	16.67	16.67	16.67
変動要因等	2018年度	地域での支え合いを進めるため、発達障害等の研修やほろ酔い座談会を開催しながら地域での活動を支援している。					
	2019年度	地域での支え合いを進めるため、発達障害等の研修やほろ酔い座談会を開催しながら地域での活動を支援している。					
	2020年度	地域での支え合いを進めるため、地域福祉に関わる研修会を各地区で開催し地域での活動を支援している。					
	2021年度	地域での支え合いを進めるため、地域福祉に関わる研修会を各地区で開催し地域での活動を支援している。					
	2022年度	地域での支え合いを進めるため、地域福祉に関わる研修会を各地区で開催し地域での活動を支援している。					
施策 2	課題に向けた施策の実施状況(施策共通指標)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		50.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	2017年度に策定後、課題解決のための協議等を行いながら取組を行っているが、まだ施策の実施にまでは至っていない。					
	2019年度	課題解決のための協議を福祉21茅野のワーキンググループなどで行っているが、施策の実施にまでは至っていない。					
	2020年度	課題解決のための協議を福祉21茅野のワーキンググループなどで行っているが、施策の実施にまでは至っていない。					
	2021年度	課題解決のための協議を福祉21茅野のワーキンググループなどで行うとともに、市の新しい施策等への意見を行っている。					
	2022年度	課題解決のための協議を福祉21茅野のワーキンググループなどで行うとともに、市の新しい施策等への意見を行っている。					
施策 3	地域福祉の推進へのアンケート調査実施(施策共通指標)	0	-	-	-	-	-
		1	-	-	-	-	-
変動要因等	2018年度	計画の期間を、3、3、4で区切り、見直しを行うときにアンケート調査を行うため、今年度は実施していない。					
	2019年度	計画の期間を、3、3、4で区切り、見直しを行うときにアンケート調査を行うため、今年度は実施していない。					
	2020年度	計画の期間を、3、3、4で区切り、見直しを行うときにアンケート調査を行うため、今年度は実施していない。					
	2021年度	計画の期間を、3、3、4で区切り、見直しを行うときにアンケート調査を行うため、今年度は実施していない。					
	2022年度	計画の期間を、3、3、4で区切り、見直しを行うときにアンケート調査を行うため、今年度は実施していない。					
柱 1	※社会福祉協議会で策定する強化発展計画の内容を踏まえて設定する。						
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
柱 2	地域福祉団体活動数	4	4	4	4	4	4
		4	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	民生児童委員、保護司・更生保護女性会、日赤奉仕団の4団体の活動が引き続き実施されている。					
	2019年度	民生児童委員、保護司・更生保護女性会、日赤奉仕団の4団体の活動が引き続き実施されている。					
	2020年度	民生児童委員、保護司・更生保護女性会、日赤奉仕団の4団体の活動が引き続き実施されている。					
	2021年度	民生児童委員、保護司・更生保護女性会、日赤奉仕団の4団体の活動が引き続き実施されている。					
	2022年度	民生児童委員、保護司・更生保護女性会、日赤奉仕団の4団体の活動が引き続き実施されている。					
柱 3	※各事業の検討状況を踏まえて指標を設定する						
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	ふれあい、学びあい、支えあいのあふれるまち	体系番号	0101010103
		主管課	地域福祉課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		
投資額	事業費(円)	81,392,635		74,161,894	0.91	69,584,172	0.94	79,173,000	1.14	66,238,369	0.84	
	うち一財(円)	73,135,095		65,904,354	0.90	61,175,432	0.93	70,764,000	1.16	57,782,029	0.82	
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)	社会福祉協議会助成事業補助金が減となったため。										
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		
総合評価	主な取組内容や成果	・福祉21茅野主催の発達障害に係る研修会や、諏訪中央病院を中心とした行政区におけるほろよい座談会の開催など、地域福祉に係る学びの場が提供された。		・社会福祉協議会が主催する福祉教育関わる活動が243件実施され学びあいの場が提供できた。 ・今年度は適正な補助金支出に向け、実績を踏まえた補助金精算方法を確定した。		・社会福祉協議会が主催する福祉教育関わる活動について、新型コロナウイルス感染症対策を行い53件実施され学びあいの場が提供できた。 ・社協への適正な補助金支出を行うため、実績に応じた補助金精算実施した。		・社会福祉協議会が主催する福祉教育に関わる活動について、新型コロナウイルス感染症対策を行い54件実施され学びあいの場が提供できた。 ・社協への適正な補助金支出を行うため、実績に応じた補助金精算実施した。		(R4評価)茅野市社協ボランティア・まちづくりセンターを中心に、「地域を育む」という意識を持って、誰もがお互いに支え合える地域づくりを推進した。 (総括評価)社協への補助金支出によりコロナ禍においても継続的な福祉教育活動を実施することができた。		
	課題	・地域福祉行動計画の策定や様々な学習機会を通して、ボランティアな支え合いの意識の醸成をすすめる。		・地域福祉活動を進める上で、社会福祉協議会とのネットワーク形成を図る必要があり、市と社協との認識共有が不十分である。		・地域福祉活動を進める上で、社会福祉協議会とのネットワーク形成を図る必要があり、特に現状把握が不十分のため課題解決へ取り組みない状況である。		・地域福祉活動を進める上で、社会福祉協議会とのネットワーク形成を図る必要があり、特に現状把握が不十分のため課題解決へ取り組みない状況である。		(R4・総括評価共通)地域におけるボランティアの推進、福祉教育の推進に向けた取組の活性化を図るため、茅野市社協ボランティア・まちづくりセンターと地区コミュニティセンターとの連携をうまく機能させる必要がある。		
改革・改善	改革・改善内容	・社会福祉協議会との協働体制について、より連携が図れる方法を検討していく。		・今後の組織的な再構築に向けて、職員の交流派遣を検討していく。 ・社協が実施する各事務事業について性質を整理し、適切な補助対象事業の精査を始める。		・職員交流を活かし、社協の事務事業評価、人事評価を進めていく。 ・地域福祉活動における現状把握を行い、課題抽出と解決方法のCSWと連携し行う。		・職員交流を活かし、社協の事業評価を更に進めていく。 ・社会福祉協議会のCSWと連携し、地域福祉活動における現状把握や課題抽出及び解決方法を検討していく		令和5年度中に茅野市社協ボランティア・まちづくりセンターをゆいわく茅野の1階へ移転し、地区コミュニティセンター等との連携を強化する。		
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1		1		1	
		重点事務事業	1		1		1		1		1	
理由	法人運営に多額のコスト投入を行うとともに計画推進の両輪となる社会福祉協議会との協働による成果を高めていく。		社会福祉協議会へ投入するコストについて事業内容を精査し、健全な法人運営による市との協働による成果を高めていく。		社会福祉協議会へ投入するコストについて事業内容を精査し、健全な法人運営による市との協働による成果を高めていく。		社会福祉協議会へ投入するコストについて事業内容を精査し、健全な法人運営による市との協働による成果を高めていく。		社会福祉協議会へ投入するコストについて事業内容を精査し、健全な法人運営による市との協働による成果を高めていく。			